

令和2年度シラバス (数学)

| | | | | | |
|--------|----------------|-----|-----|---------|-----|
| 教科(科目) | 数学(数学Ⅰ) | 単位数 | 3単位 | 学年(コース) | 1学年 |
| 使用教科書 | 実教出版 高校数学Ⅰ 新訂版 | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | |

1 学習目標

- 基礎学力の定着を図ると共に、自発的な学習態度を身につかせる。
- 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 指導の重点

- 1クラス2展開の少人数授業で個に応じた指導を行う。
- 基礎計算の復習をこまめに行い、学び直しに力を入れる。
- プリント学習を中心とし、演習の時間を多く取り、考え方・解き方の理解を深めていく。

3 学習計画

| 月 | 単元名 | 教材 | 学習活動(指導内容) | 時間 | 評価方法 |
|----------------|-----------------|----|--|----|-------------------------------------|
| 4 5 6 | 第1章 【数と式】 | | <ul style="list-style-type: none"> 整式 (文字式、展開、因数分解) 実数 (平方根、実数) 方程式と不等式 (1次方程式、1次不等式) | 25 | 課題考査 定期考査 授業への取組 提出物 |
| 7 8 9 | 第2章 【2次関数】 | | <ul style="list-style-type: none"> 関数とグラフ (1次関数、2次関数とそのグラフ) 2次関数の値の変化 (最大・最小、2次方程式、2次不等式) | 30 | 課題考査 定期考査 授業への取組 提出物 |
| 10 11 12 | 第3章 【三角比】 | | <ul style="list-style-type: none"> 三角比 (三角比の利用、三角比の相互関係) 三角比の応用 (三角形の面積、正弦定理、余弦定理) | 30 | 定期考査 授業への取組 提出物 |
| 1 2 | 第5章 【データの分析】 | | <ul style="list-style-type: none"> データの分析 (ヒストグラム、代表値、データの散らばり) | 10 | 課題考査 定期考査 授業への取組 提出物(研究課題) |
| 2 3 | 第4章 【集合と論証】 | | <ul style="list-style-type: none"> 集合 (集合と要素) 命題と証明 (命題、いろいろな証明法) | 10 | 定期考査 授業への取組 提出物 |

計 105 時間 (50分授業)

4 課題・提出物等

高校入学までの基礎計算力を向上させるための課題(マナトレ)を定期的に課す。
 入学前及び夏休み、冬休みに計算問題を中心とした課題を課すので、計画的に取り組むこと。
 また、休業明けには課題テストを実施する。

5 評価規準と評価方法

| 関心・意欲・態度 | 数学的な見方や考え方 | 数学的な技能 | 知識・理解 |
|---|--|--|-----------------------------------|
| 数学的活動を通して、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用している。 | 数学的活動を通して、数学的な見方や考え方を身に付け、論理的に考えることができる。 | 事象を数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できる。 | 原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。 |
| 以上の観点を踏まえ ①授業の取組（授業態度・発表や討論の様子・学習活動への参加状況等） ②プリント学習・課題・提出物などの内容 ③定期考査 ①から③を総合的に判断し、評価します。 | | | |

6 担当者からの一言

基礎学力の定着を目的として授業を構成していきます。中学時代に数学が不得意だった生徒もいると思いますが、少人数授業で一人ひとりに寄り添いながら丁寧に指導していくので、積極的に取り組んでいけば、解ける喜びを感じることができると思います。

(担当：長谷川)

